

三井のリフォーム住生活研究所 所長 西田 恭子

「夫婦別寝」と聞いて…

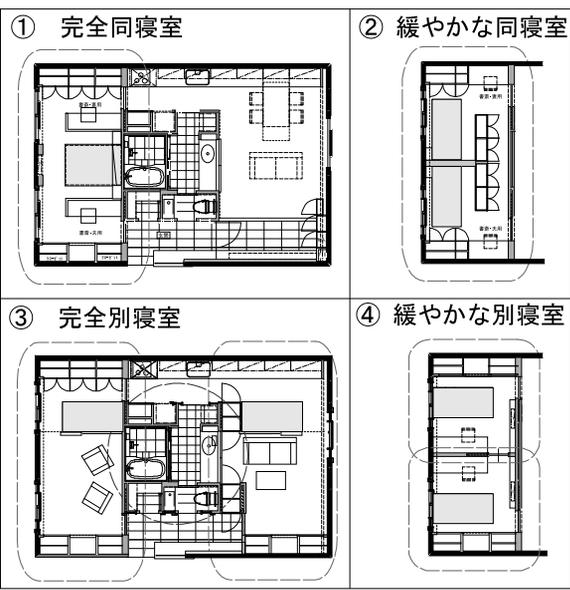
「夫婦別寝室」と聞いて何を思うだろうか？

リフォームで生活そのものを見ている我々は、今さらお伺いしたお宅が夫婦別寝であったからといって何も驚かない。淡々と正確に要望を聞き、より豊かな生活に向かい、今をベースに将来への設計を進める。

あるテレビ局の制作者が夫婦別寝の取材に来た時のこと、「夫婦別寝ってマイナスイメージしかないのですが、夫婦別寝の定義って何ですか？」と聞いてきた。

その口ぶりは、あきらかに夫婦別寝は「仲の悪い夫婦の生活の知恵」と思っている節がある。案の定、彼の寝室はベッドを二つ付けてダブルベッド風にし、言葉のはしはしから、我が夫婦は仲がいいと匂わせていた。夫婦たるもの同室であるべし！という、「べき論」まで飛び出しそうだが、私が一番驚いたのは、彼がこの取材の仕事に入るまで「夫婦別寝」という言葉を知らなかったということだ。

我々のインターネット調査では、三〇代以上で四人に一人は夫婦別寝。年齢が上がると同時にその数は増



える。五〇代後半になると半数により近づいているのではないだろうか。

私は決して夫婦別寝を進めているわけではない。完全なる同寝室プラン、相手の様子がわかるが距離感のある同寝室プラン、扉を開け放せば一部屋にもなる緩やかな別寝室プラン、完全別寝室プランと選択肢は多様である。

「夫婦たるもの一緒に当然だ」あるいは「あたりまえだ」という声も聞こえてくるが、なにになにであるべきという「べき論」にとらわれず、夫婦のつながりをより豊かに深める場所と、

それぞれが独立していられる場所を家の中でどう設定するか考えたうえで、寝室設計でありたい。

アンケート調査では「理想の家族生活スタイルは？」という質問に、「家族全員が互いに尊重し、それぞれが独立している家族」がトップであった。

また別寝室の人の中で夫婦仲がよいと言う方々のほうが圧倒的に多かった。ただし、「だんなさんは寂しそうでした」と、某フジオ局的ダイレクターが街頭で「夫婦別寝」のインタビューをした時の感想を、こう語っていた。



西田恭子氏のプロフィール「一級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手かけ二五年。昨年より新設した「三井のリフォーム住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。文化女子大学非常勤講師。日本女子大学住居学科卒。